

SSDサーバーのバージョンアップ履歴

Ver1.01 2009年3月23日
初版

Ver1.10 2009年11月13日

- ①アンインストール時、削除されないファイルやフォルダがあったが、削除されるようになった。
- ②Windows2000のインストール後の再起動時、「はい(Y)」をクリックしても再起動しなかった問題に対応した。

Ver2.00 2010年7月13日

- ①Windows7 32bitに対応した。
- ②VISTAとWindows7の場合、Windowsアップデート等で10分の時間制限を無くした。
- ③ウイルス対策ソフトのアップデートの判断を、指定したレジストリで判断するようにした。
- ④ウイルス対策ソフトの新バージョンに対応した。
- ⑤特定アプリケーションのアップデートに対応した。
- ⑥rw_update.iniでのパス指定で環境文字列を使用出来るようにした。
例) DirPath0 = %USERPROFILE%\Application Data\ROMWin
- ⑦シャットダウン時のアップデート処理時にビープ音を鳴らすようにした。
Windows Update なしの時; 処理開始時(低単音)、処理終了時(高単音)
Windows Update ありの時; 処理開始時(低単音+中単音)、処理終了時(高単音)

Ver2.01 2010年11月2日

- ①Windows7 64bitに対応した。
- ②ライセンスの削除機能を追加した。
- ③ウイルス対策ソフトの新バージョンに対応した。

Ver2.01b 2011年6月21日

- ①SATAのSSDをROM化している環境で、IDE接続でCFやHDを接続すると、ROM化にならなくなる問題に対応した。
- ②ウイルス対策ソフトの新バージョンに対応した。
- ③特定アプリケーションのアップデート機能の新バージョンに対応した。

Ver3.10 2011年9月21日

- ①ファイルログドライバを改善した。
- ②Trimコマンドを出さないように設定するようにした。
- ③タスクスケジュールを無効に設定するようにした。
- ④Superfetchサービスを無効に設定するようにした。
- ⑤保存ディレクトリに %USERPROFILE% の使用を可能にした。
- ⑥新規ユーザー保存機能を追加した。
- ⑦AMD SATA Controller搭載PCがROM化にならない問題に対応した。
- ⑧boot.iniがC:以外にあった場合でも対応出来るようにした。

Ver3.11Xp 2012年3月6日

- ①WindowsXPのみ、指定したメモリ番地をSSDサーバーで使わないようにする機能を追加した。
- ②WindowsXPのboot.ini用オプションスイッチ用バッファサイズを128文字から256文字に増やしし。
- ③RAIDに対応した。
- ④ウイルス対策ソフトの新バージョンに対応した。

Ver3.11 2012年4月13日

- ①WindowsXP 64bitに対応した。
- ②Windows2000以外の全てで、指定したメモリ番地をSSDサーバーで使わないようにする機能を追加した。

Ver3.12 2012年6月7日

- ①PAEに対応し、ライトエミュレーションメモリはOS管理外メモリからOS管理内メモリを使用するようになった。
- ②32bitOSで、4GB以上のOS管理外メモリが使用出来るようになった。
- ③Windows7の「システム回復オプション」を無効に設定するようにした。
- ④ROM-Win SSD-2.5 SATAに対応した。

- ⑤SSDのパーティション作成ツールを追加した。
- ⑥Windowsの起動途中にシャットダウンされた時に、更新内容がディスクに反映されてしまう問題に対応した。
- ⑦ライセンスプログラムに、ドライブ選択機能を追加した。
- ⑧ウィルス対策ソフトの新バージョンに対応した。
- ⑨特定アプリケーションのアップデート機能の新バージョンに対応した。
- ⑩AtomのCPU等を使用したPCへインストールした時、STOP: 0x000000D1が発生する問題に対応した。
- ⑪PAE対応のCPUかどうかの判定と実装メモリー量が4GB以上かを確認後、4GB以上の実装メモリーの使用可能容量を検索するようにした。
- ⑫ライセンスプログラムで、RAID/SCSIのディスクに対応した。

Ver3.14 2013年8月8日

- ①Windows8に対応した。
- ②ライセンスプログラムのドライブ選択機能で、リムーバブルドライブを除外するようにした。
- ③ライセンスプログラムのドライブ選択機能で、ドライブの自動選択を最後から先頭に変更した。
- ④USB2.0メモリーへライセンスを書き込んだ場合に、ライセンスが無い状態になる問題に対応した。
- ⑤インストール時のオプション設定を追加し、ディスククリーンアップを呼び出す機能と、SuperfetchやWindows Search、Windows Defender、Security Center、Windows Updateを無効にする設定を設けた。
- ⑥set_emem.exeの、メモリーの自動設定値修正した。

Ver3.15 2014年4月10日

- ①GPTディスクに対応した。
- ②ライトエミュレーションのOS内管理メモリーの確保を、一括から必要に応じて確保する方式へ変更した。
- ③Windows Updateの判定を改良した。
- ④ウィルス対策ソフトの新バージョンに対応した。
- ⑤eMMCのSSDに対応した。

Ver3.16 2015年9月18日

- ①Windows10に対応した。
- ②Windows 8以降 StartComponentCleanup を停止するようにした。
- ③Windows 8以降 Regular Maintenance を停止するようにした。
- ④AUTOROMの空き容量の設定値を以下の様に変更した。
 - a) Sfree = Semu * 0.75 ... Windows 7 以前
Sfree = 100 (Semu <= 100 時)
 - b) Sfree = (Semu - 300) * 0.75 ... Windows 8/8.1
Sfree = 200 (Semu <= 500 時) (swapfile.sys: 256MB)
 - c) Sfree = (Semu - 30) * 0.75 ... Windows 10
Sfree = 200 (Semu <= 230 時) (swapfile.sys: 16MB)
- ⑤ライセンスプログラムの、GPTディスクへのライセンス書き込み処理を見直した。

Ver3.17 2016年6月22日

- ①自動復元ポイントを無効化した。
- ②「アクションセンター設定」(Windows10は「セキュリティとメンテナンスの設定」)の、起動オプションを追加した。
- ③Windows Defender設定の、起動オプションを追加した。
- ④Windows Defender無効化オプションを追加した。
- ⑤Task Schedulerの無効化オプションを追加した。
- ⑥ストア アプリケーションの展開抑止オプションを追加した。
- ⑦診断追跡サービスの無効化オプションを追加した。
- ⑧オプション設定をデフォルトにした。
- ⑨インストール後のライトエミュレーション容量の設定変更時、ディスク領域の設定も変更可能にした。
- ⑩GPTディスクの空き領域を、ライトエミュレーション用に利用可能にした。
- ⑪32bit時のset_emem.iniファイルの、「UseOver4GBMem = 1」をデフォルトにした。
- ⑫ウィルス対策ソフトの新バージョンに対応した。
- ⑬特定アプリケーションのアップデート機能の新バージョンに対応した。

Ver3.17-2 2016年7月27日

- ①IntelスティックPC (STK1AW32SC)等のSDバス接続のディスクに対応した。
- ②NVMe expressのディスクに対応した。
- ③オプションのデフォルト設定の有効/無効を、設定可能にした。

Ver3. 17-3 2016年8月25日

- ①Windows10(1607)版に対応した。

Ver3. 17-4 2016年9月29日

- ①KINGSTON等一部のSCSI認識のディスクにライセンス登録出来ない問題に対応した。

Ver3. 17-5 2017年1月27日

- ①Task Schedulerの無効化オプションを削除した。

Ver3. 17-6 2017年2月28日

- ①IntelスティックPC (STCK1A32WFC)等のSDバス接続のディスクに対応した。

Ver3. 17-7 2017年5月30日

- ①Windows10用のドライバをマイクロソフトの署名に変更した。

Ver3. 18

- ①Windows10 1803に対応して、レジストリの更新処理を変更した。
- ②Windows10 1809に対応して、Windows Defenderの設定方法を変更した。
- ③Windows10 1809で「Security Center を 無効にする」が機能しなくなった為、定義を変更した。
- ④DriverフォルダにWin10. 1709フォルダを追加した。
- ⑤ウイルス対策ソフトの新バージョンに対応した。

Ver3. 19 2019年4月26日

- ①SDデバイスでシリアル番号が無い場合は、MACアドレス+UUIDを使用するようにした。
- ②RAID/SCSI認識するディスクでLANが無い場合は、UUIDを使用するようにした。
- ③NVMeディスクは、常にUUIDを使用するようにした。
- ④MACアドレスが複数ある場合の対応を改善した。
- ⑤Windows UpdateとWindows Defenderの無効化オプションの設定を改良した。

Ver3. 20 2020年9月1日

- ①USBメモリがUDRWG4からUDRWG5に変わった。
- ②ストア アプリケーションの自動ダウンロード/自動インストールを無効にする
WSDownloadDisable.regを追加した。

Ver3. 21 2021年4月28日

- ①Windows10 20H2以降は、「オプション設定」の「ストア アプリケーションの展開を抑止する。」
のチェックを外した。

Ver3. 21-1 2021年8月18日

- ①Windows10 2004以降に、ROM化の表示でもファイルが保存されてしまう問題を修正した。
- ②Windows Update後にスタートメニューを表示しなくなる問題を修正した。

Ver3. 22 2021年11月18日

- ①Windows11 21H2に対応した。
- ②PCの機種によって、DVDドライブのアクセス時にブルースクリーンになる問題を修正した。

Ver3. 23 2022年7月28日

- ①インストール時のオプション設定の、SSDSET.iniを変更した。
- ②次の設定を追加・変更
 - ・ Superfetch の無効化設定
 - ・ Windows Update の無効化設定
 - ・ Windows Defender の無効化を変更
 - ・ Windows スポットライト機能を すべて無効にする
 - ・ ストア アプリ更新の自動ダウンロードとインストールを 無効にする
 - ・ Microsoft Store の全てのアプリを 無効にする
 - ・ 検索ハイライトを 無効にする
 - ・ 「ニュースと関心事項」を 無効にする
 - ・ ウィジェットを 無効にする

・タスクスケジュールのオフ設定

Ver3.24 2023年1月16日

- ①インストール時のオプション設定の、SSDSET.iniを変更した。
- ②ライトプロテクト機能を追加した。
- ③Windows2000用インストーラを削除した。

Ver3.25 2023年7月20日

- ①フィルタードライバをミニポートドライバ方式に変更した。
- ②ログ取得の条件を変更し、処理を高速化した。
- ③OS内部データへのアクセスをAPIに変更した。
- ④Windows Update時にストアアプリ関連の更新機能を追加した。
- ⑤rw_update.iniの指定で、ワイルドカードを使用できるようにした。
- ⑥rw_update.iniの指定で、HKEY_CURRENT_USER指定できるようにした。
- ⑦rw_update.iniの指定で、UsrClass.datに対応するキーの指定もできるようにした。
- ⑧アンインストールを改善した。
- ⑨RWLicense.exeの表示をWindows11対応にした。

Ver3.27 2024年7月1日

- ①Windows10 22H2以降の「プライバシーの設定」とWindows11 22H2以降の「プライバシーとセキュリティの設定」は、iniファイルの設定で自動で無効にできるようにした。
- ②Windows11 23H2に対応した。

Ver3.27a 2024年11月1日

- ①Windows11 24H2からWMICコマンドが廃止され、従来のライセンスプログラムではライセンスの登録が出来なくなった。WMICを使用せずにライセンスの登録ができるようにした。

Ver3.28 2025年9月8日

- ①UFS(Universal Flash Storage)のディスクに対応した。
- ②SSDの物理セクタ長が4KB(4096B)の物に対応した。
- ③ライトエミュレーションドライバのRAMの上限を64GBから1TBに変更した。
- ④ライトエミュレーションドライバをマルチスレッド処理に対応した。